



平成26年5月20日

会 社 名 株式会社テクノマセマティカル
(コード 3787: マザーズ)
住 所 東京都品川区北品川四丁目7番35号
代 表 者 代表取締役社長 田 中 正 文
問 合 先 担当者 経営企画部 中 山
電 話 番 号 03-5798-3636

＜マザーズ＞ 投資に関する説明会開催状況について

以下のとおり、投資に関する説明会を開催いたしましたので、お知らせいたします。

○ 開催状況

開催日時 平成26年5月20日 15:00～16:00

開催方法 対面による実開催

開催場所 東京証券会館

東京都中央区日本橋茅場町1-5-8

説明会資料名 平成26年3月期＜第14期＞決算説明会

【添付資料】

1. 投資に関する説明会において使用した資料

business

network network network network network network network

chance

Techno Mathematical Co.,Ltd.

株式会社テクノマセマティカル

平成26年3月期＜第14期＞ 決算説明会

■ Algorithm Specialist

TMC

平成26年5月20日

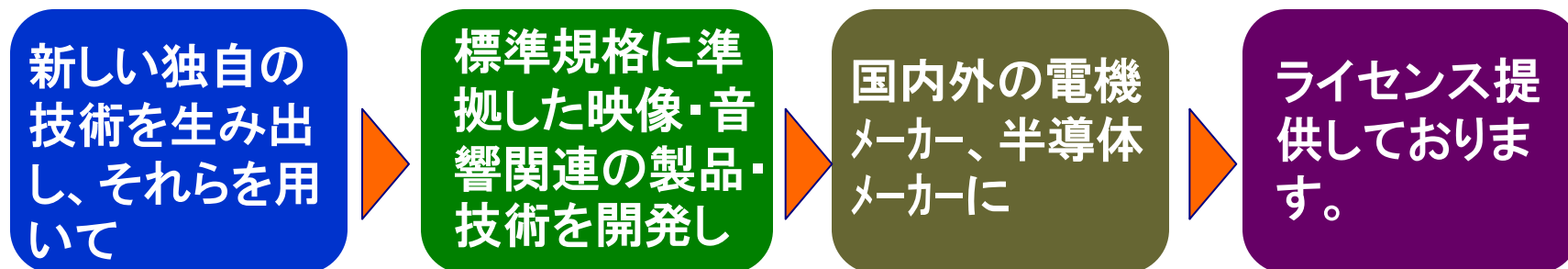
Agenda

1. 事業概要
2. 今期決算と来期予想
3. 売上内訳
4. B/S、C/F
5. 来期(H27/3期)について
6. これからの事業展開について

本説明会および説明会資料に含まれる将来の見通しに関する部分は、現時点で入手可能な情報に基づいて、当社が判断したものであり、多分に不確定な要素を含んでおります。

実際の業績等は、さまざまな要因の変化等により、これらの見通しと異なることがありますことをご了承ください。

1-1 当社の基幹業務について



- ①高圧縮率、
- ②高画質、
- ③低消費電力、
- ④低遅延

が実現できるデータ圧縮技術を開発、提供し続けます。

1-2 当社の基幹業務について

2000年6月設立当初から

“アルゴリズム開発” をビジネスの基幹と位置付け

DMNA

(Digital Media New Algorithm)

テクノ マセマティカルが開発したアルゴリズムの愛称

画像/映像

音響/音声

DMNAを圧縮／伸張処理に応用

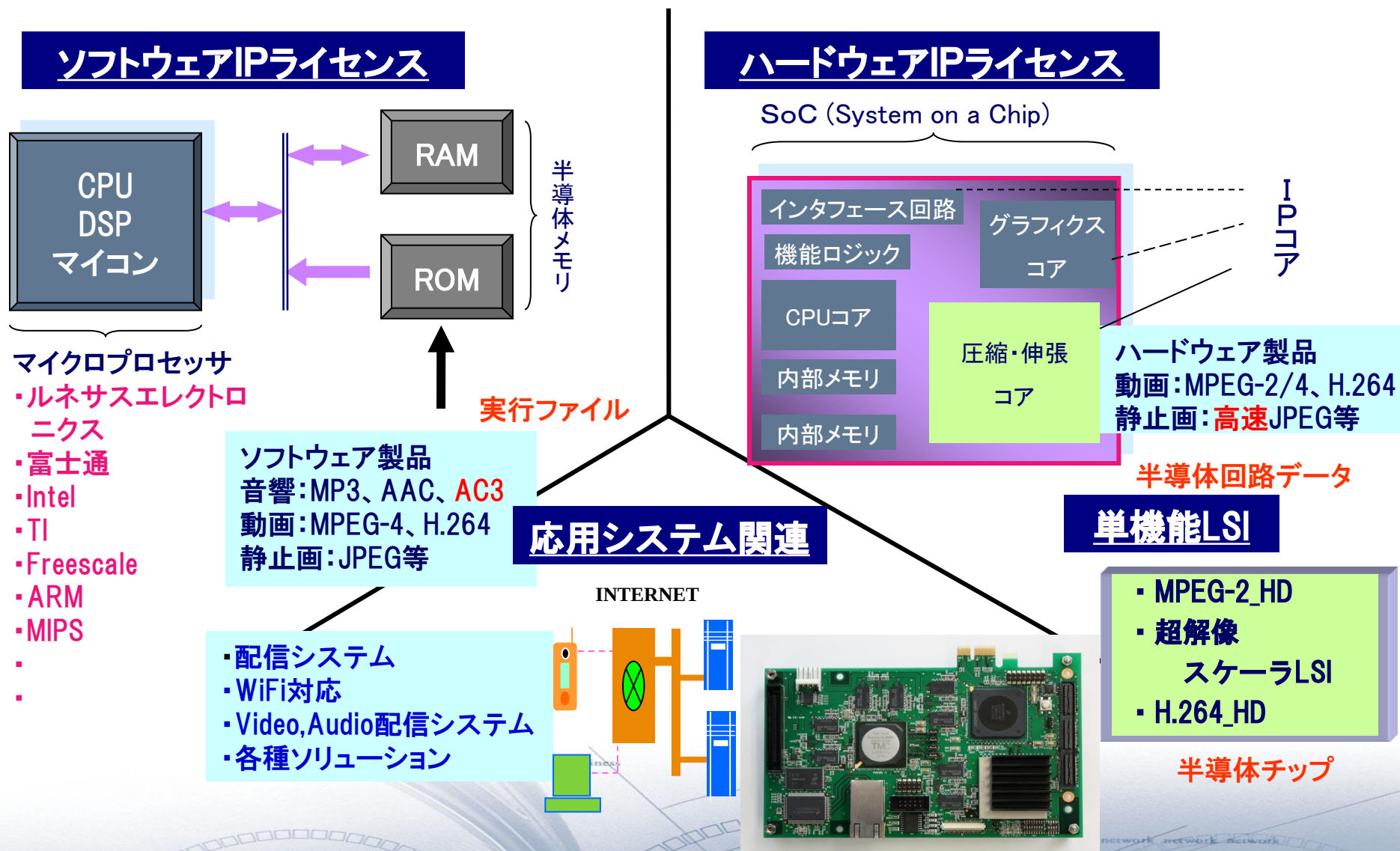
ソフトウェアIP

ハードウェアIP

単機能LSI

応用システム事業

1-3 製品形態



1-3-1 画像／映像

8K HEVC リアルタイム デコーダ ソフトウェア

- ・ HEVC(H.265)は2013年1月に標準化された最新の動画圧縮・伸張規格。
 - ・ (利点)H.264の二倍の圧縮性能
 - ・ (欠点)信号処理が非常に複雑で重い → 消費電力大、CPU負荷重い
- ・ 8Kは2016年から試験放送が開始、2020年には本放送へ移行予定。



独自のコンピュータ・アルゴリズム「DMNA」をHEVCに適用することで、HEVCデコード処理の演算量を大幅に削減することに成功。



通常ではリアルタイム処理できないようなCheepな環境においても、リアルタイム処理を可能に。

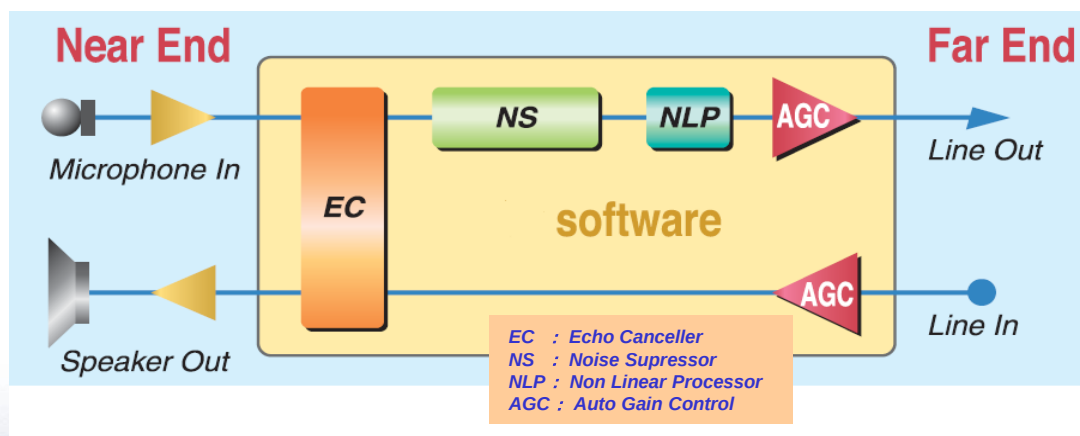
1-3-2 音声

ハンズフリー ソフトウェア

ハンズフリー・ソフトウェアは、スピーカフォン使用時のエコーをキャンセルし、全二重通話を可能にするソフトウェア。



携帯電話によるハンズフリー通話や、インターフォン、TV会議システムなどでの採用実績を背景に、車載要求水準を満たすハイスpekクバージョンを鋭意開発中。



1-3-3 ソリューション

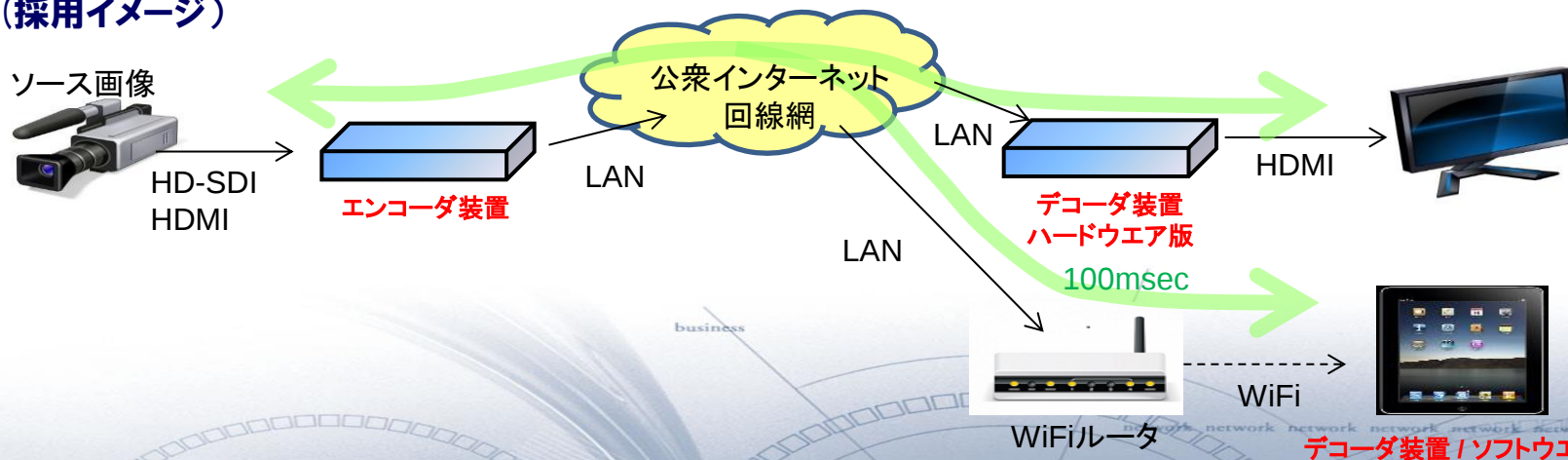
低遅延・低ビットレート伝送装置

数学的手法を駆使した独自のコンピュータアルゴリズム[DMNA]を用いた
独自規格による大画面映像・音声の低遅延伝送技術



- ・公衆インターネット回線網や3G回線などの一般的な国内インフラ
で利用できる、低遅延・低ビットレートの伝送装置
- ・放送現場や簡易監視用のモニタリングシステムに最適

(採用イメージ)



1-4 当社事業の特徴

1. 独自技術により、差別化された製品

「DMNA」を核とした独自アルゴリズム



2. 利益逡増型の収益構造

ライセンス・ロイヤルティモデルを主体とした収益力

3. 全世界に展開可能

国際標準規格準拠、日本発の映像／音響／音声製品

4. 事業領域拡大による収益力の向上

既存／新規の技術を応用したソリューション分野への展開

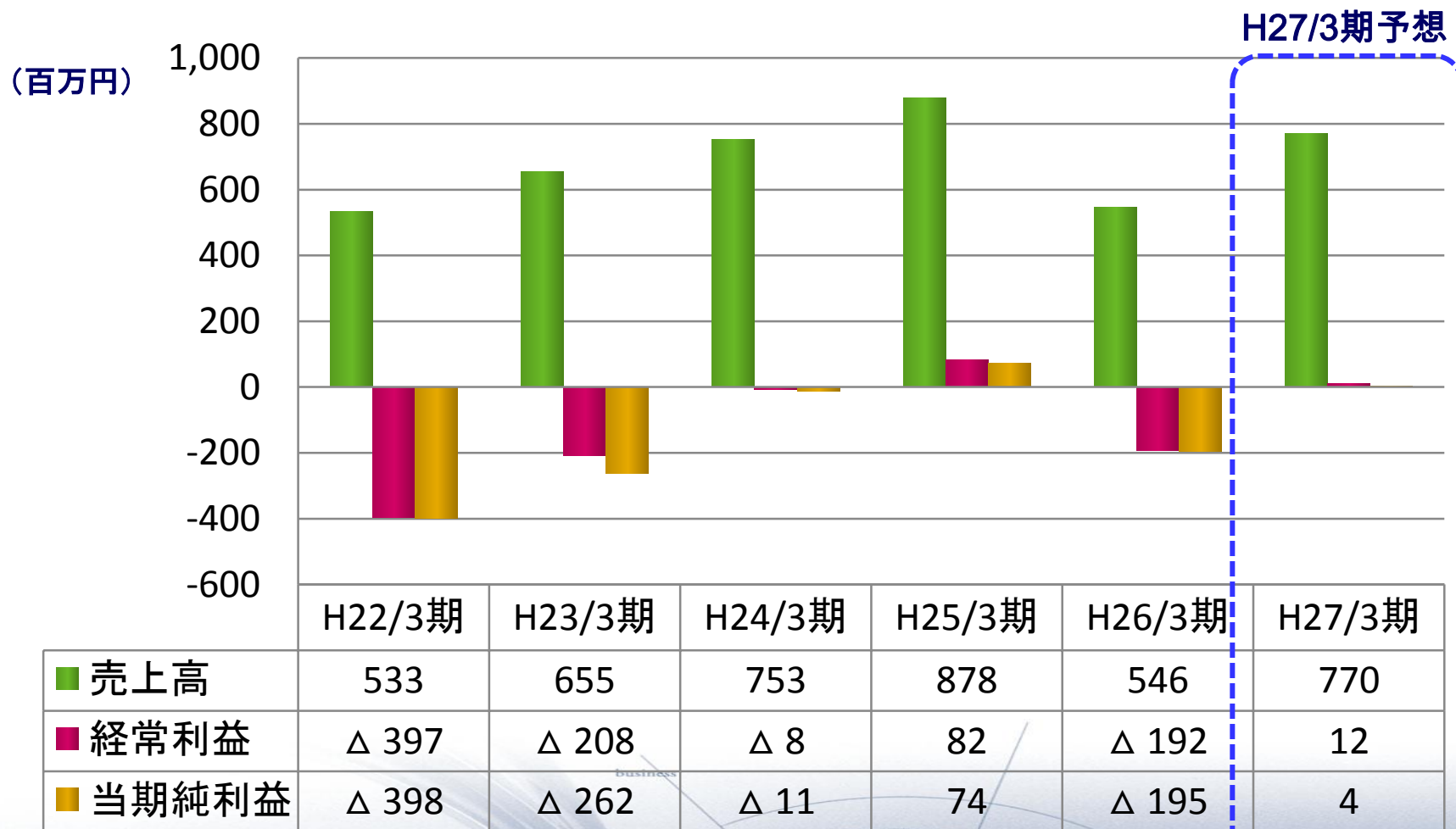
2-1 損益計算書推移

(単位:百万円、%)

	H25/3期(実績)			H26/3期(実績)			H27/3期(予想)		
	金 額	構成比	前期比 増減額	金 額	構成比	前期比 増減額	金 額	構成比	前期比 増減額
売 上 高	878	100.0	125	546	100.0	△ 332	770	100.0	224
売上総利益	779	88.7	117	501	91.8	△ 278	710	92.2	209
販売管理費	703	80.1	28	698	127.8	△ 5	700	90.9	2
営 業 利 益	76	8.7	88	△ 196	△ 35.9	△ 272	10	1.3	206
経 常 利 益	82	9.3	90	△ 192	△ 35.2	△ 274	12	1.6	204
当 期 純 利 益	74	8.4	85	△ 195	△ 35.7	△ 269	4	0.5	199

2-2 業績の推移

H26/3期
要 因 ◆ 売上高 大型案件少なく、各部門売上の大幅計画未達により40%近い減収に
◆ 損 益 経費節減進めるも減収分をカバーできず3期ぶりの大幅赤字



3-1 売上の内訳(事業区分別)推移

H26/3期

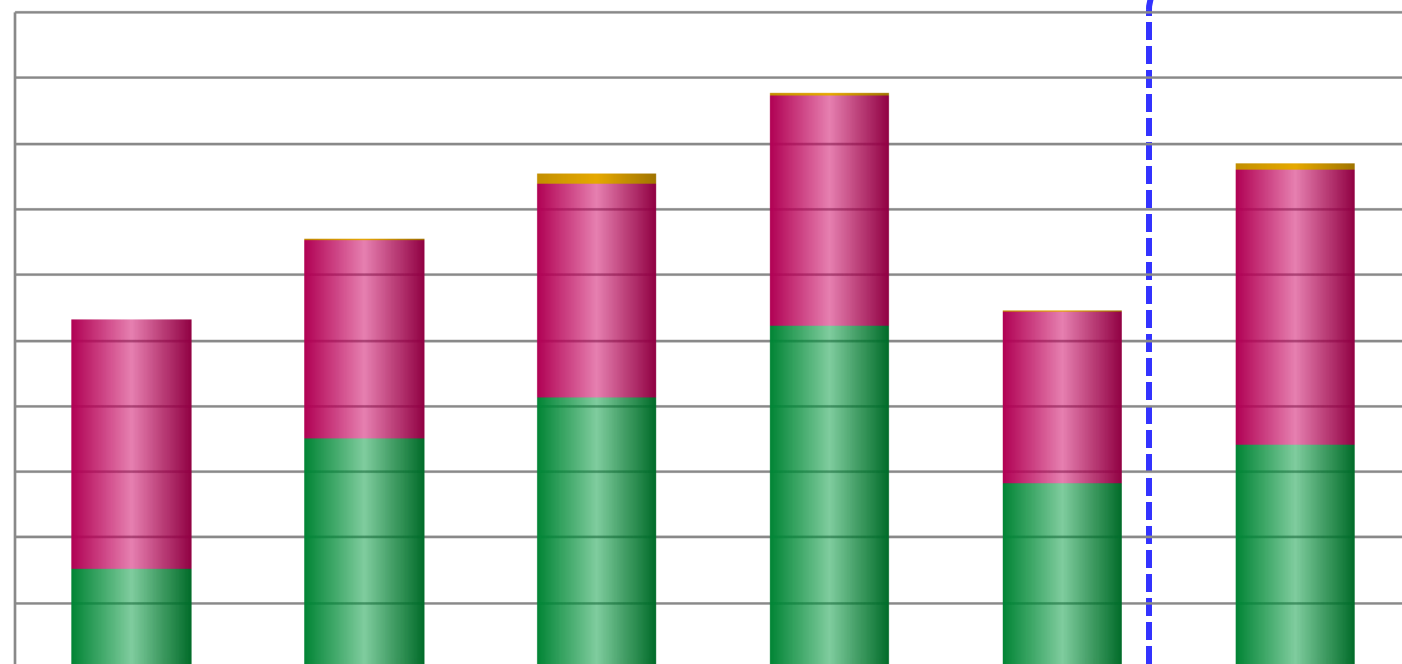
◆ソフトウェアは前期比大幅減・・・電子辞書関連、車載関連健闘するも大型案件数減少が響く

◆ハードウェアは前期比25%減・・・海外案件の獲得に成功したが、国内獲得案件数が減少

H27/3期予想

(百万円) 1,000

900
800
700
600
500
400
300
200
100
0



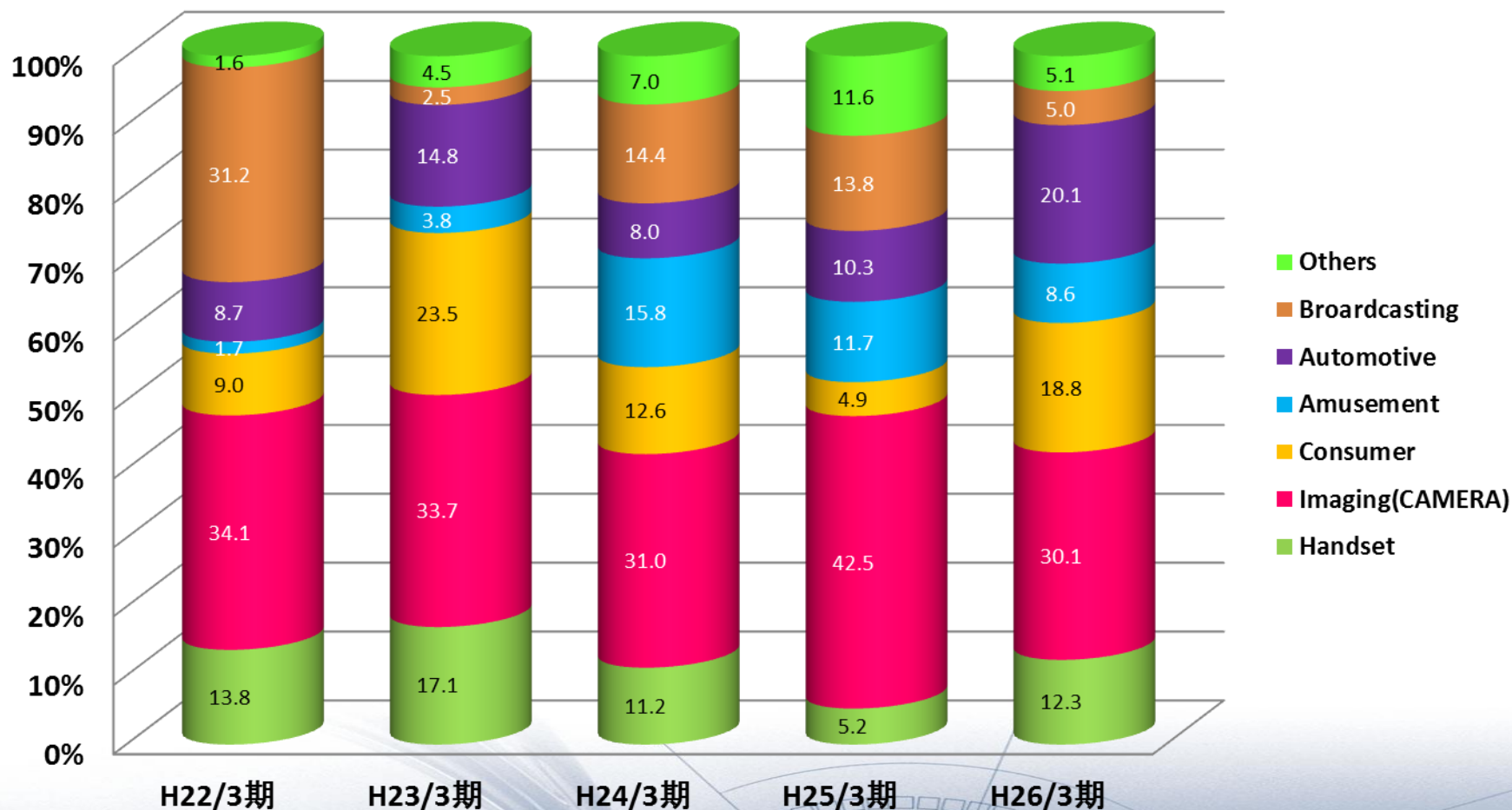
■ 単機能LSI	H22/3期	H23/3期	H24/3期	H25/3期	H26/3期	H27/3期
	0	1	15	5	1	10
■ ハードウェア	380	302	326	350	262	420
■ ソフトウェア	152	351	412	522	282	340

3-2 売上の内訳(対象市場別)推移

◆カメラ関連が縮小、車載向けは比重が拡大

H26/3期

◆前期不振だったConsumer向けは電子辞書関連中心に健闘



4-1 貸借対照表 (平成26年3月31日)

(単位:百万円)	前々期末 (H24/3期末)	前期末 (H25/3期末)	当期末 (H26/3期末)	構成比	対前期末比 増減
流動資産	3,136	3,221	2,539	81.4%	△ 681
固定資産	101	91	577	18.5%	486
資産合計	3,237	3,313	3,117	100.0%	△195
流動負債	119	108	100	3.2%	△7
固定負債	7	7	—	—%	△7
純資産	3,110	3,197	3,016	96.7%	△180

4-2 キャッシュ・フロー計算書推移

(単位:百万円)	前々期 (H24/3期)	前 期 (H25/3期)	当 期 (H26/3期)	対前期比 増 減
営業活動による キャッシュ・フロー	△104	203	△199	△ 403
投資活動による キャッシュ・フロー	△1,299	990	△ 2	△ 992
財務活動による キャッシュ・フロー	12	12	14	2
現金及び現金同等物 の 増 減 額	△1,392	1,208	△184	△ 1,393
現金及び現金同等物 の 期 首 残 高	1,581	188	1,397	1,208
現金及び現金同等物 の 期 末 残 高	188	1,397	1,212	△ 184

5-1 H27/3期業績見通し

(単位:百万円)

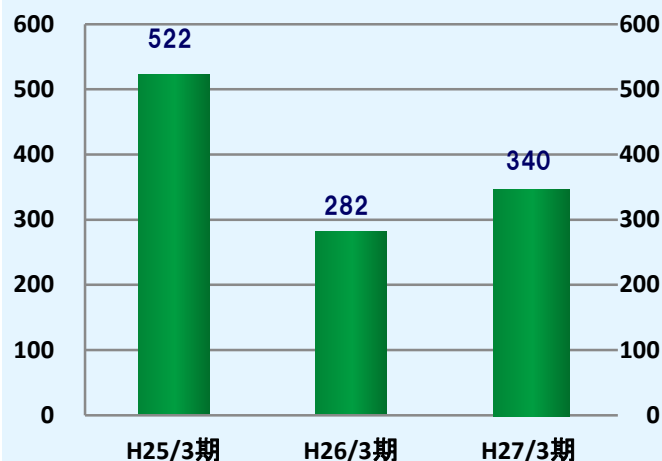
	予 想	増減	増減率	H26/3期実績
売 上 高	770	+224	+41.0%	546
経 常 利 益	12	204	—	△192
当 期 純 利 益	4	199	—	△195

- ◆ ソフトウェアライセンス＝配信システム、携帯端末、車載ナビ向け中心に需要見込む
- ◆ ハードウェアライセンス＝ディスプレイ装置向け中心に復調見込む、FPGAへも対応
- ◆ 単機能LSI/TM5184MJC＝監視カメラ、サイネージ向けに拡販
- ◆ ソリューション＝主として放送・通信分野をターゲットに展開

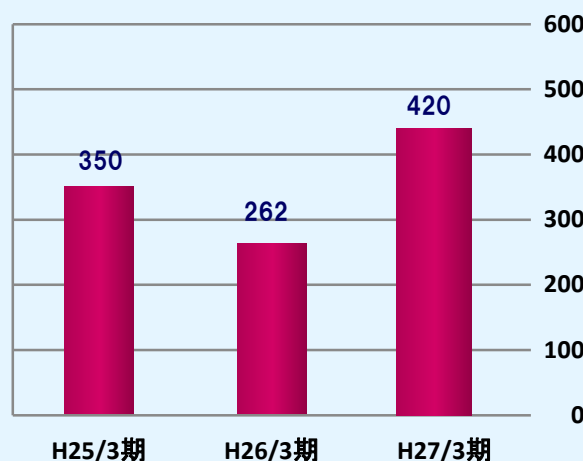
5-2 事業区分別売上予想

＜売上高＞（単位：百万円、H25/3期、H26/3期は実績、H27/3期は予想）

ソフトウェア事業



ハードウェア事業



LSI事業



予想基礎

- ・ **配信システム**関連でH.264/H.265等ビデオ関連は底堅い需要見込む
- ・ オーディオ、ボイス関連も**携帯端末**、**車載**向けに伸び見込む

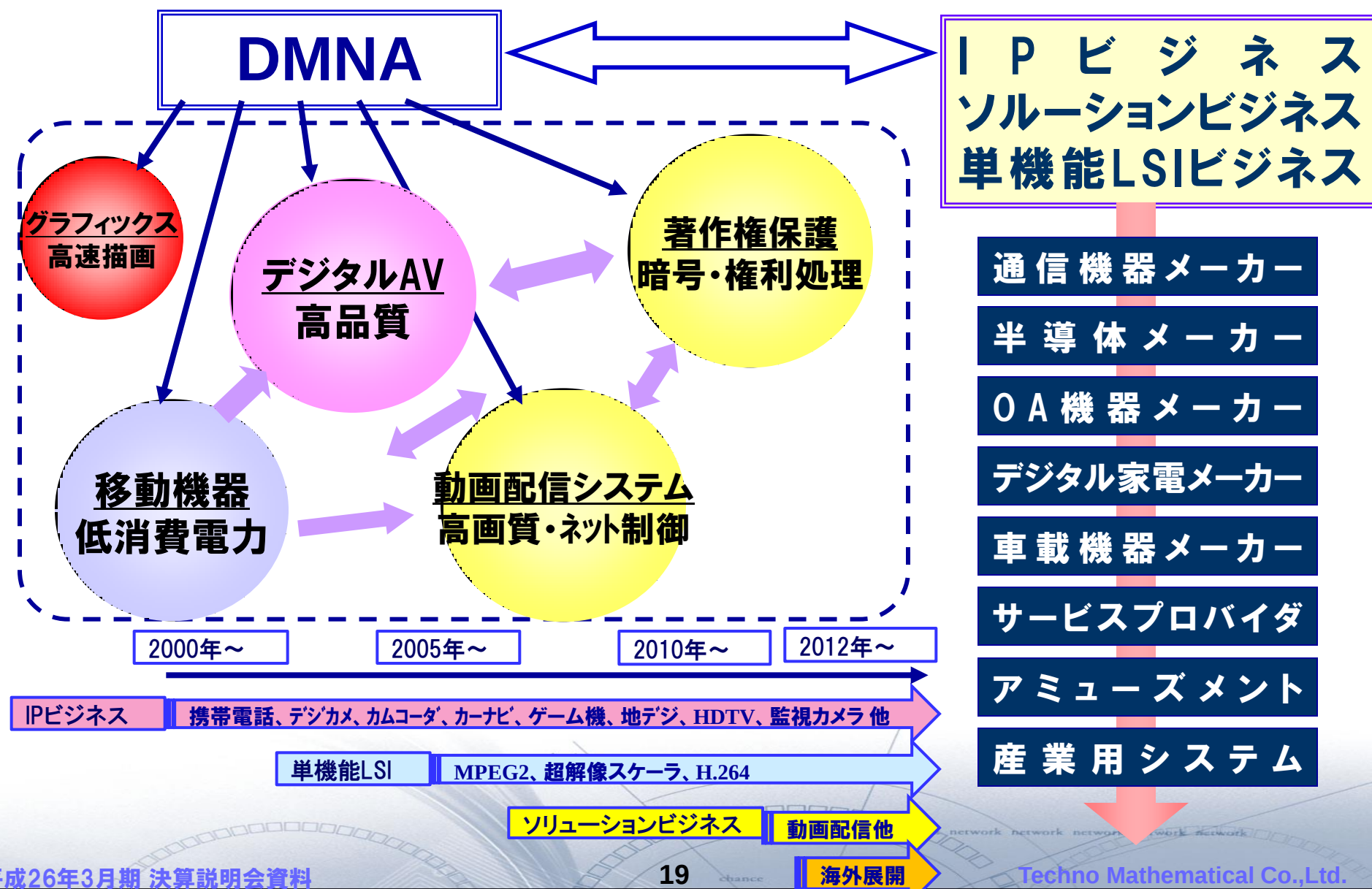
- ・ **ディスプレイ装置**向けに固定長圧縮中心に復調を見込む
- ・ **4K/8K**案件獲得、**海外**案件の拡大目指す
- ・ **FPGA**向けも期待

- ・ **H.264LSI**はボード+CPU搭載の**TM5184MJC**で販売強化
- ・ 用途を民生用から**産業用**に拡大して顧客を開拓

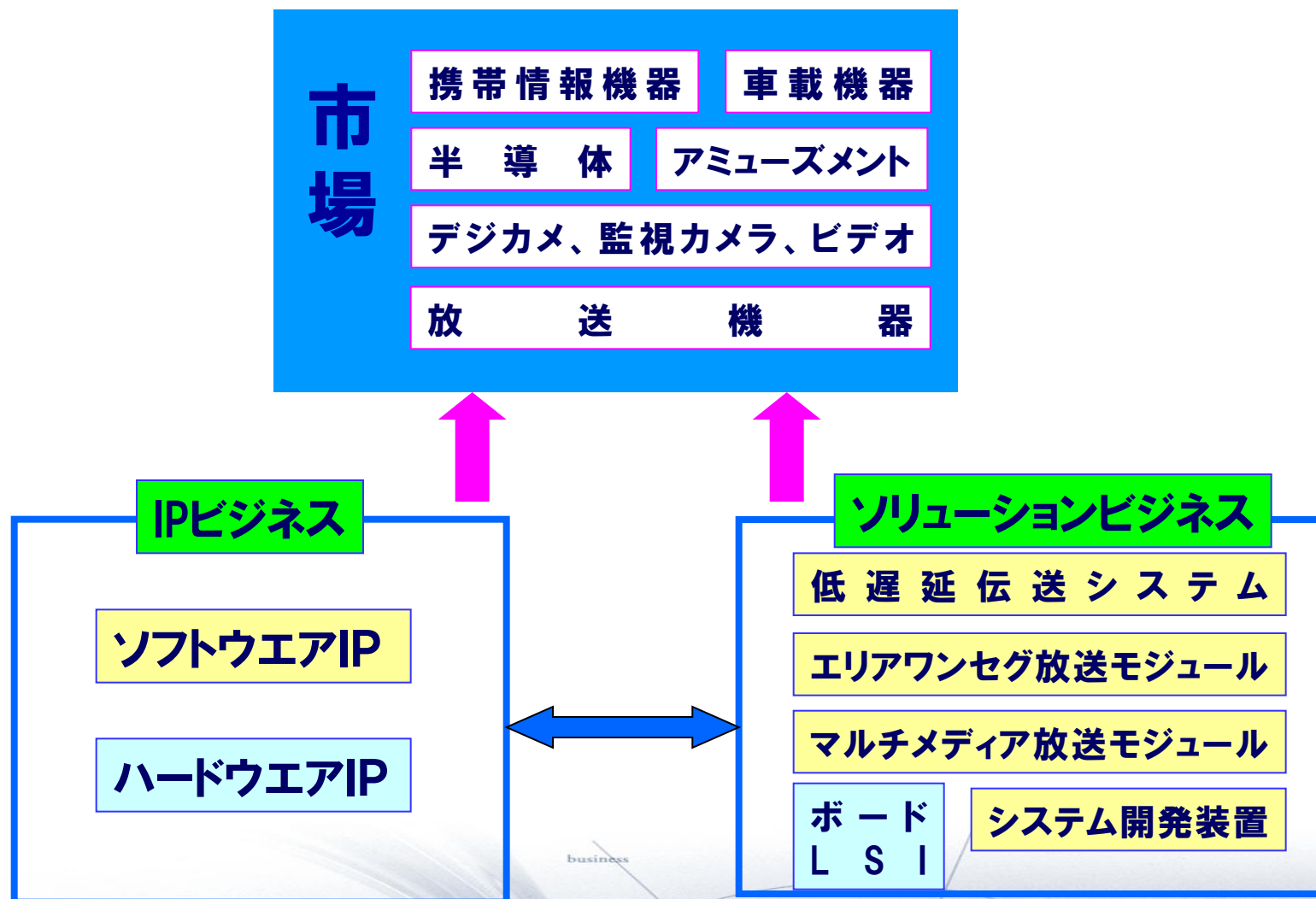
5-3 平成27年3月期における課題

1. ソリューションビジネス立ち上げの技術課題
 - a. デバイスチップの基本技術開発
 - b. アプリケーションソフトウェア技術の確立
 - c. システム基本構成の開発
2. 海外ビジネスの基盤強化と案件数拡大
3. 全部門の意識改革による黒字体質の構築
4. 既存技術の高機能化・高性能化による差別化/優位性の維持・強化

6-1 ビジネス展開の推移



6-2 IPビジネスとソリューションビジネス



アルゴリズムの分野で 世界のスタンダードになる！

ご清聴ありがとうございました。

本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性に関する責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いします。ここに示した意見は、本資料作成日現在の当社の意見を示すのみです。当社は、本資料中の情報を合理的な範囲で更新するようにしていますが、法令上の理由などにより、これをできない場合があります。

本資料および説明会内容についてのお問合わせ先

株式会社テクノマセマティカル 経営企画部

TEL:03-5798-3636 E-mail:ir@tmath.co.jp